

I 主題設定の理由

毎年実施している健康診断を振り返った時、保健管理の面では達成感があるが、保健教育の面では十分に実施できていないように感じる。職員や子どもたちの様子を見ていても、時間や静かに受けることに意識が傾きがちである。健康診断を疾病のスクリーニングで終わらせず、自分のからだを見つめる保健教育のチャンスととらえ、より教育的に行いたい。

しかし、健康診断を教育的に行うにはどうしたらよいか、多忙な中、どのような形での指導が可能かなど悩みは多い。また、「教育的」な内容も様々なものが考えられる。

藤田和也氏らの日本教育保健研究会健康診断プロジェクトによると、教育的な健康診断に関する実践研究は、大きく3つの特徴に分類される。1つ目は子どもの人権・健康権を大事にした健康診断の追求。2つ目は職員・学校医・保護者らが連携しあい、協力し合う健康診断の追求。3つ目は子どもを主体にした健康診断の追求である。本研究では3つ目の子どもを主体にした健康診断の追求を目指し、「からだに興味を持ち、より良い健康行動を実践しようとする子どもの育成」につながる健康診断のあり方を考えたい。

そこで、まず本研究では養護教諭に健康診断に関する事前調査を行い、理想とする健康診断とその実施を妨げる課題を分析する。次にその結果をもとに、自分のからだに興味を持ち、よりよい健康行動を実践しようとする子どもを育てる健康診断のあり方を探りたいと考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 健康診断に関する3つの調査の実施

(1) 調査方法

本グループの養護教諭を対象に質問紙法自由記述式調査（複数回答可）を行いカテゴリー分類した。

<調査1 養護教諭が健康診断で教えたいと考えている内容調査>

①対象：市教研保健養護部会花見川区養護教諭17名

②調査時期：平成23年6月

③実施方法：「あなたが健康診断で子どもたちに教えたいことはどんなことですか。」という質問に対して回答を得た。

<調査2 健康診断事前事後指導の実態調査>

①対象：市教研保健養護部会花見川区養護教諭17名

②調査時期：平成23年6月

③実施方法：「あなたが現在健康診断で行っている保健教育を意識した事前事後指導をお書きください。」という質問に対して回答を得た。

<調査3 教育的な健康診断を行う上での課題調査>

①対象：市教研保健養護部会健康診断グループ養護教諭17名

②調査時期：平成24年6月

③実施方法：「教育的な健康診断を行う上で課題に感じていることはなんですか。」という質問に対して回答を得た。

(2) 結果及び考察

調査1の結果をカテゴリー分類したものを表1に示した。記述が多かった健康診断は、「歯科検診」「視力検査」「発育測定」であった。これらの健康診断は生活習慣と関わりが深く、子どもたちが健康によい行動をとることで、疾病の予防や改善につながりやすく、指導した結果が健康に結びつきやすいことが理由ではないかと考える。

次に、指導したい内容別にカテゴリー分類しなおしたところ、「健康によい行動」「検診結果を理解するための指導」「からだに関すること」「検診の目的・意義」「検診の受け方」の5つに分類された。「健康によい行動」に関する記述が一番多く、それと重なる部分が多い「からだに関すること」も合わせると記述数は89となり圧倒的に多いことがわかる。このことから、養護教諭は健康診断を通して健康

表1 調査1結果 ()は記述数

<健康診断項目> 歯科検診に関すること (63) 視力検査に関すること (43) 発育測定に関すること (21)
<指導したい内容> 健康によい行動 (67) 検診結果を理解するための指導 (28) からだに関すること (22) 検診の目的・意義 (20) 検診の受け方 (18)

により行動を学び、実践して欲しいと考えていることがわかった。

調査2の結果(表2)を見ると、短時間でできる指導や個別指導を中心に保健教育を意識した事前事後指導を行っていることがわかった。

調査3では教育的な健康診断が実施できない要因を分析するため、実施上の課題を調査した。回答を大きく分類すると表3に示した5つに分けられた。多忙、効率を優先させてしまうといった「時間」に関する記述が一番多かったが、事前事後指導のあり方や内容が不十分、結果を保健指導に活かしていない、生活改善につながらないなど「指導方法の検討不足」に関する記述も多く見られた。また、この5つは独立しているわけではなく、重なりあう部分も多い。理想とする教育的な健康診断は、調査3の課題すべてを解決できるような健康診断のあり方を模索することだが、その実現は難しい。そこで、本研究で考える理想的な健康診断を実施するにあたって、解決することがより重要だと思われる「指導方法の検討不足」の改善に焦点を当てて取り組みたい。この課題を改善するために必要だと考えられる内容を「研究の視点」とし、4つの視点を設けた。この研究の視点をもとに、主題に迫りたい。

表2 調査2結果 ()は記述数

児童向けほけんだよりの活用 (12)
掲示物の活用 (7)
個別事後指導 (10)
児童委員会活動での啓発 (2)

表3 調査3結果 ()は記述数

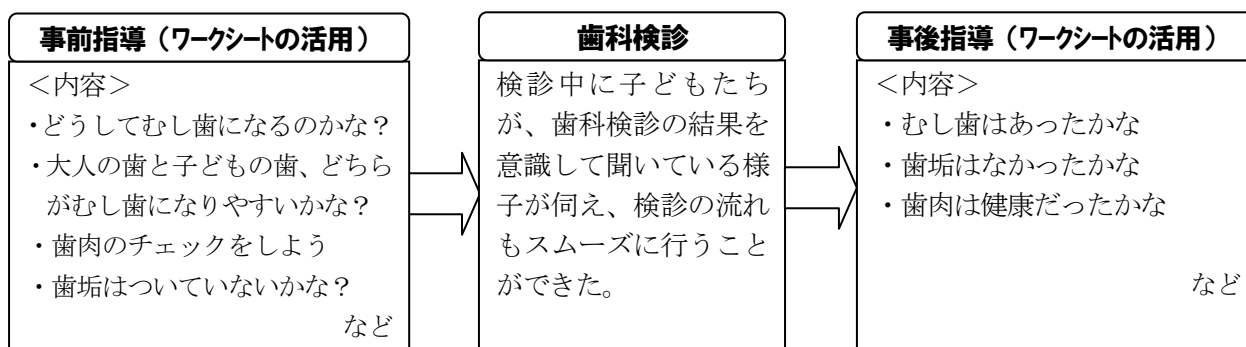
十分な時間確保が難しい (24)
職員・学校医との連携不足 (23)
指導方法の検討不足 (18)
養護教諭の力量不足 (8)
プライバシーの保護 (7)

研究の視点

- 【視点1】 子どもが健康診断の受け方や実施方法を理解して受けることができる工夫
- 【視点2】 子どもが健康診断の目的や内容、結果を理解し、自分のからだについて認識を深める工夫
- 【視点3】 子どもたちの意見や疑問を取り入れる工夫
- 【視点4】 健康行動の実践を支援する工夫

2 実践

「研究の視点を取り入れた歯科検診」【視点1】【視点2】



記述式ワークシートを使用した歯科検診事前指導・事後指導を実施した。学年に応じて目的や内容を考えさせるとともに、実施後に感想を書くことで自分のからだについて認識を深めさせた。また、指導者用のレジメを用意し、受け方や実施方法が確実に確認できるようにした。検診中、結果を意識して聞いている様子が伺えた。事後指導のワークシートを見ると、歯みがきの大切さが意識され、自分の歯の健康について考える機会となっている。

IV 今後の予定

すでに実践した研究の視点を取り入れた健康診断について評価を行い、成果と課題を分析していきたい。また、研究の視点を取り入れた次のような実践を計画している。

「からだの悩みを質問する時間を取り入れた健康診断」【視点3】

健康診断を利用した学校医との個別相談を実施。保健だよりに利用し、学校医への質問・相談を募集。検診時に学校医に回答してもらう。

「歯科検診を保健教育につなげる」【視点4】

6年生保健学習「病気の予防 生活習慣病の予防2」に健康診断を振り返る時間を取り入れることで、健康診断結果を自分の生活に関連づける。

5年生を対象とし、歯科健診結果から自分の生活を見直す内容を取り入れた保健指導の検討をする。